

筑大広報第 04-212 号
平成 17 年 2 月 7 日

筑波研究学園都市記者会 御中

筑 波 大 学

筑波大学第二学群日本語・日本文化学類開設 20 周年
記念シンポジウムの開催について

本学第二学群日本語・日本文化学類では、開設 20 周年を記念したシンポジウムを下記のとおり開催しますのでお知らせします。

シンポジウムは、「日本語教員養成の課題と展望」「日本事情教育を支える文化教育の理論と方法」「近世日本における中国語・韓国語の受容」と題された三つのセッションから成り、日本語・日本文化教育に関する過去 20 年の活動を振り返ると共に、今後の課題と可能性を展望します。

シンポジウムの参加は自由となっていますので、誰でも参加できます。また、事前の申し込みも不要です。

記

開 催 日：平成 17 年 2 月 12 日（土）13:30～16:00
13 日（日）10:00～16:00
開催場所：筑波大学大学会館ホール

連絡先：日本語・日本文化学類事務室
TEL：853-6764
FAX：853-6839
総務・企画部広報課
TEL：853-2040
FAX：853-2014

「発信」

—日本語・日本文化教育の展望—

日本語・日本文化教育に関する過去20年の歩み・現状をみすえ、
今後の課題と可能性を展望する。



期日

2005年2月12日(土)・13日(日)

場所

筑波大学 大学会館ホール

交通アクセス

東京駅から高速バス (高速バス乗り場3番バス停)
東京駅八重洲南口から「つくばセンター」行きバス(約65分)
つくばセンターから「筑波大学中央」行きバス(10-15分)

JR常磐線

ひたち野うしく駅 バスターミナル東口から
「筑波大学中央行」バス(30-40分)／タクシー(20-25分)
荒川沖駅 バスターミナル 西口から
「筑波大学中央行」バス(30-40分)／タクシー(20-25分)

主催：国立大学法人筑波大学第二学群日本語・日本文化学類
後援：茨城県、(財)霞山会、(独)国際協力機構筑波国際センター、(独)国立国語研究所、
つくば市、(財)日韓文化交流基金、(社)日中友好協会

問い合わせ先

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学第二学群日本語・日本文化学類事務室
TEL：029-853-6764 FAX：029-853-6839
<http://www.japanese.tsukuba.ac.jp/>

詳細 <http://www.tsukuba.ac.jp/navi/access.html>

2005年2月12日(土)

開会式 13:00~13:30

第1セッション 13:30~16:00

日本語教員養成の課題と展望

概要とねらい

日本語・日本文化学類は、開設以来、日本語、日本語教育、日本文化、異文化理解を柱としたカリキュラムにより、日本文化を海外に発信する人材の養成を目的として学類生の教育にあたってきた学類である。

ここでは日本語・日本文化学類の教育活動の中、特に日本語教員養成に焦点を当て、この20年の活動を振り返り、その活動の変遷、成果、現状の問題点等について概観する。これを踏まえ、留学生教育、異文化理解、多言語共生のそれぞれの分野からの提言を受け、大学における日本語教員養成の今後の課題と可能性について議論する。

司会：今井雅晴(筑波大学教授 日本語・日本文化学類長)

「日本語・日本文化学類の20年」 高田 誠(筑波大学教授)

「留学生教育と日本語・日本文化学類」

シュテファン・カイザー(筑波大学教授 留学生センター長)

「異文化理解と日本語・日本文化学類」 嶺井明子(筑波大学助教授)

「多言語共生と日本語・日本文化学類」

一三三朋子(筑波大学講師)

ティーパーティー 16:30~18:30

2005年2月13日(日)

第2セッション 10:00~12:00

日本事情教育を支える文化教育の理論と方法

概要とねらい

大学等の留学生の教育現場では、多くの場合、「日本語・日本事情教育」としてカリキュラムが構成され、日本事情教育は日本語教育と並ぶ重要な分野として認識されている。しかしながら、その目的、領域がどのようなものであるかという点については、必ずしも

明確な共通認識が得られていないのが現状である。勢い、その内容は、各機関、各教育担当者により、個々の「教育現場」に応じて紡ぎ上げられていく傾向にあり、そこから生じる種々の問題点も従来から繰り返し指摘されてきている。

こうした状況のもと、日本事情教育の根幹を支える基本理念、理論を構築し、教育の目的、内容、方法の明確化と充実を図ることが急務である。

本シンポジウムでは、現状の分析を踏まえ、日本事情教育ひいては日本文化教育の理論化のための課題、実践のための課題を整理した上で、周辺領域との協力関係構築の模索を含め、今後の研究、教育の展開の方向性を探り出す。

コーディネーター：砂川裕一(群馬大学教授)

パネリスト：小口千明(筑波大学助教授)

西原和久(名古屋大学教授)

昼休み 12:00~14:00

第3セッション 14:00~16:00

近世日本における中国語・韓国語の受容
—文化史的観点から—

概要とねらい

近世日本における中国、韓国との間での、言語、文化の発信、受信の双方向交流のあり方をテーマとし、これを文化史的観点から議論する。

日本と中国、韓国の間では長く言語、文化の相互交流が行われてきたが、近代以降は、西欧の言語、文化を介在させる形での相互交流の側面が強くなる。従って、日、中、韓において、外国文化として互いの国の言語、文化が他の国に流入する際の「原型」は、近世以前にある可能性がある。

本シンポジウムでは、特にこの点に着目し、近世日本における、中国、韓国の言語、文化の受容のあり方を主軸に議論することで、日本、中国、韓国、三国の間での相互文化交流の「原型」を求めると同時にこれを現在と比較し、文化史的観点からその特徴を捉える。

コーディネーター：湯澤質幸(筑波大学教授)

パネリスト：今井雅晴

(筑波大学教授 日本語・日本文化学類長)

張昇余(中国 西安外国語学院教授)

李康民(韓国 漢陽大学校教授)

閉会式 16:00~16:20